

● 本会の動き ●

☆「第12回上席化学工学技士交流会(大阪)」 に参加して☆

去る2月6日(火)、「第12回上席化学工学技士交流会(大阪)」が開催され、本年度上席化学工学技士に合格された3名、御指導をいただいている大阪大学名誉教授平田先生を含め、全国各地より11名が参加された。今回はサントリースピリッツ(株)様の御厚意により山崎蒸留所にて開催された。

まず工場見学からスタートして、仕込み(糖化)、発酵、蒸溜、熟成(貯蔵)など一連の工程を見学して、あわせて製造工程を熟知されたベテラン技術者の方にプロセスのポイントや苦勞される部分などの解説を受けた。さすがに参加メンバー全員化学工学技術者であるため、見学中は品質、プロセス、管理ポイント等々質疑応答のやりとりが多々あり、かなりの時間オーバー気味となった。それでも丁寧に解説いただき、全員納得しながらの見学を終了した。



引き続きウイスキーに関するセミナーがあり、世界のウイスキー蒸留所や種類、製法、特徴などを教えていただいた。多くのメンバーが本格的なウイスキーに関する意外な知見に驚きつつも、途中ウイスキーのテイステイングもあり、さらに各メンバーの好奇心が高まった。

その後、場所を酒類技術開発センターまで移動。サントリー

スピリッツ(株)坂口正明様より「スピリッツ蒸留の理論と実践」というタイトルでご講演いただいた。なかでも、ものづくりでは原理原則の解明や品質とプロセスとの因果関係、メカニズムが非常に重要であり、同社ならびにご自身も実践されているが、評価の難しい官能品質と製造プロセスとの因果関係を理解できる(結びつけて考えることができる)こともあわせて重要であるとのご発表に共鳴する声相次いだ。分析装置では解明できない、できたとしても分析結果では顧客を説得できないなど官能評価、品質で苦勞を経験している参加メンバーも多くおられるが故に、共鳴の輪が広がったものと思われる。



懇親会では、本会でも以前から議論の中心である、「社会実装できる化学工学」について議論があった。すなわち、化学工学教育や産学連携において、具体的な出口(新製品開発、社会貢献、国際競争力強化)を目標とした教育や活動が極めて重要であり、上席化学工学技士がこういった課題をブレイクスルーしていく役割を果たしていくことができるのではないかといった活発な議論があった。本課題は化学工学技士という資格制度が設けられた時からの根幹的な命題と考えられる。今後引き続き上席化学工学技士をはじめ産学が一体となって議論して、具体的な活動に結びつけて行ければとの思いを新たにしました。

最後に今回このような工場見学、セミナー、ご講演、また議論の場を設定いただいたサントリースピリッツ(株)様、坂口正明様に厚く御礼申し上げます。

((株)カネカ 古川龍二)